

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	社会福祉法人 釧路啓生会 GHきたぞの	評価実施年月日	平成21年1月30日
評価実施構成員氏名	ふきのとう (菅原 鯉口 堀 河本 砂川 紺野 中村 笛木)		
記録者氏名	菅原	記録年月日	平成21年2月6日

北海道

■は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
<p>1</p> <p>■ 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所の理念をもとに地域に根ざし、互いに支えあえるグループホームを目指している。</p>		<p>近隣住民に幅広く理解してもらえるよう努める。</p>
<p>2</p> <p>■ 理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を理解し、実践していくことを常に心がけている。入居者の生活支援や、状態変化に伴うケア内容の変更、確認時においても、毎月GH会議で検討し理念に沿った対応を心がけている。</p>		<p>毎月ユニット内で理念に沿った目標を立て、ケアの質の向上に繋げている。</p>
<p>3</p> <p>■ 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族に日常の生活を伝える際や、ボランティアさんや、運営会議の際に、リネンを基にした対応を行なっていることを伝えている。また、ホームの理念を理解してもらえるよう、ホーム内行事への参加を呼びかけている。(園芸ボランティア、ふれあいランチ、お話相手等)</p>		<p>ホームの広報誌に記載する。広報誌は町内に回覧しているので、理解していただく機会としたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4</p> <p>■ 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩や外出時には積極的に挨拶するよう心がけている。ホーム中庭に隣接しているサイクリングロードを散歩している住民の方々は気軽に手を振ってくれることが度々ある。また、施設脇にパークゴルフ場があり、地域の方に開放して、使用していただいているため交流の機会が持てる。</p>		<p>地域との交流の機会を増やしていく。</p>
<p>5</p> <p>■ 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>当ホームは町内会の特別会員となっており、地域や小学校の行事等に誘いを受け、参加している。</p>		<p>今年度は町内会の焼き肉会・盆踊り、小学校の運動会や学芸会にも誘っていただいている。今後も積極的に参加して行きたい。</p>
<p>6</p> <p>■ 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域との交流をとおして状況に応じて事業所として地域に貢献できるように、積極的に取り組んで行きたい。</p>		<p>検討し取り組んで行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	改善する点などあれば見直し改善している。	サービスの振り返りになる。また、外部評価の結果を受けてサービスの向上に繋げていきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議では、委員の皆様に入居者の生活状況を視察していただいてから、入居者の生活とサービスの状況報告を行い、ご意見をいただき、サービス向上に生かしている。	フロアリーダーも参加し、意見を参考にサービス向上に努めている。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	地域包括ケア会議に出席し、情報を得てサービスの質の向上に取り組んでいる。運営推進会議録、ホーム便りを市役所担当者に提出しホームの状況を報告し、都度アドバイスもいただいている。	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	研修を受けて、理解に努めている。	将来、必要になる方については、市役所に相談する等、活用できるように支援する。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	研修会等で学んでいる。虐待防止については日常的に、又は、会議の中で話し合い周知徹底している。	入浴時、着替えの際には、身体を観察するなど、注意を払っている。また、言葉の暴力、精神的な抑圧等にも十分配慮している。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時には、重要事項説明書にて十分な説明を行い、入居者、契約者からの疑問、不安な点に対して、理解、同意を得ている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常に、入居者が意見を率直に言える雰囲気づくりを心がけている。また、ホーム玄関内に苦情箱を設置して、家族等の意見、苦情にも対応できるようにしている。運営推進会議の際にも、毎回異なった入居者に参加していただき、意見等を聞き、その方の思いに添えるよう努めている。		意見や苦情があった場合、解決に向け、速やかな対応をおこなっている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的及び随時に、家族来訪時、電話等で、暮らしぶりや健康状態等を報告している。遠方の家族においても、同様に行っている。		広報誌(年4回発行)にて、写真や日常の様子を載せて知らせている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年7月に家族懇談会を開催している。家族とは常にコンタクトをとりながら、何でも話していただけるような雰囲気作りに努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回会議をおこなっている他、毎朝のミーティングや情報ノート等で、意見、発言の機会を設け、迅速かつ適切な対応をしている。又、食事会等も不定期ではあるが開催し、話しやすい雰囲気作りにも努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて柔軟に対応している。入居者の身体状況の変化時や行事等で、入居者の安全が確保できる人員配置を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離転による補充や、入居者の状態変化等の理由により異動を行うことはあるが、1度に多人数の入れ替えを行わないように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>当法人には専任の教育担当職員が配置されており、計画的に人材育成を行なっている。採用になると、新人研修、3ヶ月研修、6ヶ月研修、1年研修と段階を踏んだ研修にて育成している。中途採用者の研修も行っている。その他、施設内外の研修も定期的に行い、経験や能力に応じた研修も組んでいる。</p>	<p>OJTを通して育成を行っているが、外部での研修の機会も与えられている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内に連絡協議会があり、その中で、交換研修やスタッフ研修等に参加し、サービスの質の向上に励んでいる。</p>	<p>今後も交換研修、スタッフ研修に積極的に参加していく。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>新人職員には、折を見て意見を聞くようにしている。中堅職員にも、いつでも意見が言える雰囲気作りに努めている。また、法人の職員会が年3回とホーム独自の食事会年2回で、職員間のコミュニケーションを深めている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>人事考課にて、上司との面接実施(一部職員)、毎月のGH会議、人材育成研修等を実施している。また、法人の昇格基準をもとに、正職員や準職員に登用されている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談で生活状況、身体状況を把握し、利用していた施設、入院施設、ケアマネジャーからの情報も参考にしながら、本人の話を傾聴し、その人の思いに沿った支援につなげる。 また、センター方式アセスメントにより状況を分析し、本人の意思を大切にしながら、家族の思いや求めていることを理解し、サービスに反映できるように努めている。</p>	<p>今後も継続して行く。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>同上</p>	<p>本人の思いと家族のニーズに沿えるよう、しっかりと受け止め話し合う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の思いに傾聴し、必要な支援に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人、家族、ケアマネージャー、職員の間で十分な情報交換を行い、本人が安心してサービス利用出来るよう努めている。		今後も継続する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	裁縫の得意な入居者から、縫い物を習ったり、家事仕事の好きな入居者と食事作りや食事の後始末等を一緒にしている。人生の先輩であり、敬うという気持ちを常に持ちながら接している。		裁縫時、ただ行ってもらうだけでなく、縫い方を教えてもらう姿勢で接することで、入居者に笑顔や、生き生きとした表情がみられている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族には常に近況を報告し、協力も得られている。行事等への参加の呼びかけにも熱心な協力が得られている。		来訪の少ない家族さんには、電話にて近況報告をしたりし、関係が保たれるよう支援している。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族がいつでも自由に訪問できる雰囲気作りに努めており、また、ホームで行われる行事や併設の特養の行事等への参加などで家族との交流が密に図られるよう努めている。		ホームでは、7月に家族懇談会、野遊会、を行い家族間の交流をはかっている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者や家族からの要望があれば、外出、電話、面会は自由にさせていただいている。また、本人の馴染みの人や場所を大切に、これまでの生活習慣を継続できるように支援している。		入居者からの要望で、ホーム入居前に住んでいた自宅を訪れ、大変喜ばれたため、定期的に(希望のある)入居者の自宅や馴染みの場所に車で出かけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う入居者同士が自由にゆったりと交流できるよう支援している。また、体操や余暇活動等で一緒に楽しんだり、介護員を交えて会話をしたりして、孤立することのないようにしている。		入居者同士で声を掛けて、誘い合っている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用終了後も自由に訪問して頂ける関係作りに努め、要望等にも随時相談を受け入れる体制をとっている。		今後も継続する。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向に添った暮らし方をさせていただいている。自分の暮らし方を組み立てられない入居者には、どのような形がその人にベストなのかを常に模索し、寂しさや孤独感を抱かないように、他の入居者との交流を図ったり、寄り添いを多く持つよう対応している。		センター方式アセスメントを活用している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの聞き取り、他入居者との関わりや、その人との会話の中から探っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常に見守り、観察し、介護員同士の情報交換で現状を把握している。		介護日誌、連絡ノートを活用している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の意向に沿った暮らし方を第一に考え、本人の希望を探り、家族や必要な関係者の意見やアドバイスをもとに作成している。家族来訪時確認していただいている。		誰が見てもわかるように、サービス内容を作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者の状態変化時、期間ごとの見直しに際しては、本人、家族の意向を尊重し、その都度現状に即したプランを検討し作成している。		必要に応じてサービス担当者会議を開きプランに反映させている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者個々の状態(生活の様子・食事量・水分量・排泄バイタル・体調の変化)を具体的に記録し、職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		介護日誌で状態を把握し、チーム内において検討し、見直しがあるときにはプランの変更をおこなっている。その他連絡ノートも活用し、情報共有に努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設の特養ホームの喫茶売店や理容室、売店、イベント参加等に利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して暮らしを続けられるよう、警察の定期巡回時には、必要に応じた情報を提供している。消防との協力体制については、隣接する特養と一体になっておこなっている。		ボランティアの訪問による「絵本の会」、「音楽演奏」、「ふれあいランチ」等が行われており、入居者の楽しみの一つとなっている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は無いが、必要があれば担当ケアマネと話し合う。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に包括支援センター職員が出席しており、周辺情報や支援に関する情報交換、協働関係を築いている。		意見交換、相談、アドバイス等を参考にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	殆どの入居者は在宅時からのかかりつけ医を受診している。事情によっては送迎車両も出している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	特養の嘱託医として、優心病院の医師を配置しているので受診しやすい環境にあり、往診も行われている。		今後については、協力医としての交渉もしたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎日、隣接の特養看護師が入居者の健康状態観察をおこなっている。入居者も顔見知りとなっており、気軽に健康相談ができています。		定期的にバイタル測定をおこなっている。入居者の状態変化時はかかりつけ医に看護師としての所見を情報として提出している。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院が必要か否かは医師の判断と考えるので、問い合わせや協力依頼があった場合には速やかに対応できる体制がある。		入院時には本人が安心して入院できるよう、詳細な情報提供を行っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時にホームでの看取り介護について説明し、意向を確認している。書面は個人ファイルに保管し、全員で情報共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	看取り介護についての指針をまとめ、マニュアルを作成の上、研修の場で周知している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ダメージを最小限に抑えるため、できるだけ詳細な情報を提供することに努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>その人の尊厳を尊重した言葉かけや対応に、全職員が心がけて実践している。又、自尊心を損ねるような記録類の扱いもしていない。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者個々のわかる力に合わせた説明を行い、自己決定を働きかけている。また、日々の会話の中から思いを汲み取り、その人が納得し安心して暮らせるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者のペースに合わせ、その人の思いや希望を優先して対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>衣類は自分で選んでもらい着用している。髪は、特養の床屋を利用している。家族と外出し理容室や美容室(カット、パーマ)に行く人もいる。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者一人ひとりの体調、嗜好に合わせた食事の提供に努めている。食事作りは入居者と一緒に行く。下準備の手伝い、できる範囲の調理、味付け、配膳、茶碗洗い、茶碗拭きなど。</p>		<p>料理の下準備、食事の後片づけなどは役割が決まっており、入居者同士良い関係で行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒を希望される入居者はいないが、飲み物、おやつなどは日常的に楽しんでいる。タバコは1名の方が喫煙している。		煙草は、安全面に配慮し、希望するときに所定の場所にて喫煙している。おやつはリビングにて頂いているが、その他、各自管理している方は好きな時に食べている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を用い、その人の状況に応じ、プライドを尊重した排泄への言葉掛け、誘導介助を行っている。		持っている力を十分に活かした排泄介助を行っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週6日実施している。一人ひとりの希望にできるだけ添うよう、時間帯、湯温等に工夫している。		熱めの風呂が好きな入居者には、早めに入ってもらおう配慮をしている。湯船にミカンの皮やリンゴの皮を入れて入居者に喜んでもらっている。入浴を拒否することが多い入居者にも入ってもらえることが多い。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の生活を活動的にし、生活のリズムを整えるよう支援しているが、習慣的に昼食後に休息をとる方が何人かいる。		外出、散歩、毎日の体操等で活動量を増やし、夜間の安眠につなげて行ける様努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の能力に応じて、残存機能を活かし役割を持ち、張り合いのある生活が継続して行けるようにしている。		食事の下準備、配膳、茶碗拭きやおしぼりたたみ、掃除等の軽作業を楽しみにしている。その他、ショッピング、ドライブ等も楽しみにしている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理可能な方は自身で行っていて買い物も自由にしている。今後も継続して行く。		買うもの(欲しい物)によっては、家族に連絡したり、同行して買い物をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に外気浴、散歩を行っている。その他、買い物、ドライブ、外泊など希望に沿って実施している。		外食も行っている。入居者からの評判が良いため、回数を増やして行きたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の希望にそって花見、紅葉狩り、以前住んでいた町並み等へ出かけている。		今後も入居者の希望に添ったドライブを企画していく。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	玄関前のホールに公衆電話を設置し自由に使用できる。手紙、年賀状などは希望によって支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由に気兼ねなく訪問してもらえるよう笑顔でお迎えし、お茶やコーヒーでもてなし、ゆっくりして頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践している。		全職員が理解できている。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホーム北側は湿原に面しているため、ご家族の理解を得て、玄関の内外から開閉できる錠を設置しているが、入居者も開けられる状態にある。リビングから中庭への出入りは自由になっている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>入居者のプライバシーに配慮しながら、常に、所在、安全確認をしている。入居者が自由に移動できるよう、環境整備にも配慮している。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>危険物は取り除くのではなく、所定の場所に保管する。入居者の状態に合わせ、管理できる方は、はさみ、裁縫道具等使用してもらっている。</p>		<p>刃物、漂白剤、洗剤等は夜間は手の届かない戸棚に保管している。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>環境整備、与薬マニュアル、急変時の対応マニュアル等を揃えている。 介護事故発生時は事故報告書、シエル分析を作成し、事故の再発防止につなげている。</p>		<p>与薬はマニュアルに沿って行う。全員が気配りし事故を未然に防ぐ意識をもっている。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>火災避難訓練、救命講習、地震避難訓練を定期的に行っている。火災、地震、行方不明時の非常召集連絡網を整備している。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>隣接している特養と連携をとり、火災、地震、行方不明時には救援にくる体制が整っている。</p>		<p>近隣の住民にも町内会を通してお願いしている。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>日頃より入居者の状態を把握し、起こり得るリスクについては、家族等に説明し理解していただいている。また、状態変化に伴い、新たなリスクが予測される場合においても、その都度説明しているが、本人、家族が納得できる生活が支援できるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタル測定、水分、食事摂取状態、排泄状況、表情、言語、歩行状態等を観察し、チェック表に記録し、状態変化の早期発見に努めている。看護師も日常の状態をチェックしており、速やかな対応がとれている。		看護師との、報告、連絡、相談は密にとれている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の個人ファイルに薬の処方箋を綴じ確認しながら、薬の用法、用量の把握に努めている。		与薬時は2名の介護員で、名前、日にち、朝・昼・夕の復唱を交互に行い、誤薬防止に努めている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	腸の働きがよくなるよう毎日体操を行っている。また、朝食時ヨーグルト摂取、水分1日1200ml以上の摂取、献立の工夫、排泄チェック、生活リズムを整える等の取り組みをしている。		その他夏季は、外気浴、散歩、冬季間は、室内で歩行運動を行っている。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後、お茶を摂取したあと、声かけや誘導にて、入れ歯洗浄、歯磨き、うがい等の口腔ケアを行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量はチェックし記録している。朝、夕の食事は栄養士管理のもとで、栄養バランスの取れた食事が提供されている。昼食はホームで、入居者の好みを取り入れた食事をつくっている。		入居者の状態に合わせ、硬いものは小さく切る、骨を除く等の対応をしている。当日の身体状況、食欲に合わせ、お粥や別の副食も用意している。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを整備しノロウイルス、インフルエンザ流行時には、その対策を実践している。うがい、手洗い、手指消毒、温度、湿度、換気の調整等。インフルエンザの予防接種は入居者、職員の全員が受けている。		感染症予防についての対応は、研修やマニュアル等で全職員が周知している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具は毎日洗浄し消毒している。新鮮で安全な食材を使用するように心がけている。		食材の買い置きを少なくし、都度新鮮な食材を購入している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には手すりがついて、歩きやすいようになっている。夏から秋には玄関入り口までのインターロッキングのスロープ脇に色とりどりのコスモスを植えている。		冬場は玄関先の雪かきをこまめに行い、来客者、入居者が安全に安心して出入りできるようにしている。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレ内の壁紙の色調は温かみの感じられる家庭的なものにしている。		食卓テーブルや台所の棚に、中庭に咲いている花を入居者が摘んで来て飾っている。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのダイニングテーブルや、食卓テーブル、ソファに座る方が決まっている。自分の居場所ができています。		居場所に問題が生じた時は、席を替えたり、介護員が寄り添うことで対処している。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人馴染みのものを持ち込み、自室でゆったりと過ごされている方がいる反面、自室内の物をまとめてしまい、部屋としてのたたずまいを整えるのが困難な方もいる。		今後も居心地よく過ごせる工夫を行い、必要時には家族の協力を仰ぎたい。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室内、リビング内の室温、湿度、換気調整は適宜おこなっている。		冬期間の暖房による乾燥を防ぐ目的で、加湿器や加湿タオルを使用し加湿調整している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部はバリアフリーで、共同スペース等、必要と思われる場所には手すりが設置されている。入り口の多くは引き戸で安全に配慮した造りになっている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりに合った話し方や伝え方に工夫し、混乱しないように配慮している。カンファレンスで検討しケアに反映している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭には、花、野菜を植え、草取りをしたり、花を摘んでテーブルに飾ったり、野菜を収穫し、下ごしらえをしたり、漬物を漬けたりと料理をして楽しんでいる。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない 日々の会話から、思いや願いを探り、本人の意向を把握している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない お茶の時間や食事時はゆったりと世間話をし、ご入居者の皆さんからの話を興味を持って聞かせていただいている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない すべてのご入居者が自分のペースで暮らしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない ご入居者同士の会話、職員とのふれあいを楽しみ、笑顔で過ごされていることが多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない 四季を通して要望を取り入れ、ショッピングやドライブを行っている。(インフルエンザ、ノロウイルスの流行時は控えている。)
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない 早期発見、早期対応を心がけている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない 状態の変化に合わせた、柔軟な対応をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない 家族とは、常に連絡を取り合い、家族の思いに耳を傾けている。 大方の家族からは信頼されていると思う。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 たまに ほとんどない 知人やボランティアの方が訪問してくれている。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない</p> <p>町内会の行事等の招待を受け出掛けているが、住民の方々から、笑顔で迎えていただいている。</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>笑顔を絶やさず、入居者と向き合っている。</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>それぞれのご入居者が自由に自分の思いに添って生活している。笑顔も多く見られ、サービスには概ね満足していると思う。</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>行事や懇談会、日頃の来訪状態からみて、満足していると思う。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

介護理念に基づいた生活が営まれるよう支援している。春、夏、秋は、中庭に花や野菜を植え、外気浴、散歩が楽しめる、のどかな自然環境の中で生活し、冬期は下肢筋力予防のため、屋内で体操、歩行運動を行い、ほとんどのご入居者が自立歩行が出来ている。また、介護事故防止、感染症予防についてはマニュアルを整備し、シミュレーションを行い、全職員一丸となって取り組んでいる。誠実に笑顔を絶やさず、入居者本意のケアの実践に取り組んでいる。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	社会福祉法人釧路啓生会 GHきたぞの	評価実施年月日	平成21年1月30日
評価実施構成員氏名	こごみ (笹森 飯島 網谷 池田 高橋 横山 笹木 長崎)		
記録者氏名	笹森	記録年月日	平成21年2月6日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所の理念をもとに地域に根ざし、互いに支えあえるグループホームを目指している。		近隣住民に幅広く理解してもらえるよう努める。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を理解し、実践していく事を常に心がけている。入居者の生活支援や、状態変化に伴うケア内容の変更、確認時においても、理念に沿った対応を心がけている。理念に沿ったケアを実践する為、毎月コミュニティー会議で検討している。		毎月ユニット内で理念に沿った目標を立て、ケアの質の向上に繋げている。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家庭に日常生活を伝える際や、ボランティアさん、運営推進会議の際に、理念をもとにした対応を行っている事を伝えている。又、ホームの理念を理解してもらえる様、ホーム内行事への参加呼びかけを行っている。(園芸ボランティア、ふれあいランチ)		ホームの広報誌に記載し、町内会に回覧しているの、理解して頂けるよう努めている。今後も継続する。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域に案内板を設置。施設脇にパークゴルフ場があり地域の方にオープンして使用していただき交流をもっている。また個人で作上げた花壇の観覧に招かれることもある。(園芸ボランティア、ふれあいランチ、絵本の会)		もっと気軽に立ち寄ってもらえるよう工夫をしたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の特別会員にいただき、町内会行事、地域学校行事等へ参加交流を行っている。町内会の回覧板に当ホームの広報紙を配布している。		町内会での焼肉会、盆踊り大会に招待され、参加した。近隣の小学校の運動会、学芸会に招待され参加した。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	同法人の特別養護老人ホームの交流施設を開放し、サークル活動に使用していただきながら参加、交流、また、ボランティアによる交流も行っている。季節の大きなイベントを開催し地域の方との交流を行っている		同法人特養の地域交流スペースを開放。パークゴルフ場の開放認知症についての相談窓口として機能して行きたい。広報紙で呼びかけを行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>意義を理解し、サービスの改善・向上に繋げている。</p>	<p>改善の必要性がある時、検討のうえ見直しをする。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>ホーム内の行事の取り組み状況及び参加人数、更に軽作業、余暇活動の内容及び参加人数に至るまで報告している。加えて事故報告も行っている。また運営推進会議でのアドバイスを施設運営に取り入れている。</p>	<p>ホームの行事や家族懇談会との合同を企画し、サービスを見て頂き、意見、アドバイスを頂く。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域包括ケア会議に出席し、情報を得てサービスの向上に努めている。運営推進会議録のホームだよりを市役所担当者に提出し、ホームの状況を報告している。都度アドバイスを受けている。</p>	<p>機会があれば積極的に参加したい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>隣接する特養ホームと合同の研修を行っている。必要に応じ説明し活用している。</p>	<p>職員全員が理解できるよう学ぶ機会を作り、必要時に支援できるようにしたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修を受け、全職員が周知、徹底している。</p>	<p>普段から身体観察を行っている。又、言葉による虐待にも注意し、職員が互いの言動をチェックし合える様心がけている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に契約、重要事項説明書、入居のしおりにて説明している。</p>	<p>疑問に関してはいつでも質問に応じ、答えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の場において入居者から直接意見を求めている。日常の関わりのなかで入居者の声を大切に訴えのある部分は職員で話し合っている。		意見や苦情を傾聴し速やかに対応していきたい。苦情解決委員会を設置している。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月の預かり金の収支報告実施、年一回の家族懇談会にて生活状況の報告、意見交換。また家族の来訪時には近況報告を行い希望があれば日誌の閲覧他複写物も渡している。日々の様子を写したビデオやアルバムを作成いつでもみて頂けるようにしている。		広報紙により生活の様子を伝えている。献立や、認知症相談窓口も盛り込んでいる。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月7月に家族懇談会を開催しており、意見、不満、苦情を受け付ける体制、解決するための体制が整っており重要事項説明書にも記載している。		家族懇談会に運営推進委員の方も参加して頂き、交流、意見交換を行い、意見、アドバイスを頂く。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	口頭でも行っているが日々情報ノートを活用している。また月一回ユニット会議を行い職員が集まり情報交換を行っている。		行事や入居者の希望等日々のかかわりの中で得た情報を運営に反映している。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態または行事等に対応できる勤務調整を行っている。三交代シフトで勤務を組んでおり入居者の生活の流れに沿えるよう工夫している。		入居者の状態に合せ、勤務時間の調整や人員調整を行っている。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職による補充や、入居者との相性等の相応の理由がない限り異動はしない。		馴染みの関係をたたないようにすると共に、折り合いが悪い時は期間を決めて距離を置いてみる等の配慮を行った。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>当法人に認知症高齢者ケアの指導者が居り、隣接する特養ホームとの合同で研修を行っている。</p> <p>施設外の研修、施設内の研修は定期的に、また、経験や能力に応じた研修を組み込んでいる。</p> <p>日々の中では具体的な指導を行う。</p>	<p>施設外での研修に参加。及び、特養と合同のリーダー研修会に参加。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>交換研修会で情報交換を行っている。</p> <p>また、GH協会に参加し研修や情報交換を行っている。</p>	<p>必要時には他老人施設と連絡を持ち、相談し助言を頂く事もあります。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>人事考課を導入し上司との面接実施(一部職員)</p> <p>毎月のGH会議</p> <p>人材育成研修の機会の利用、日常的には管理職員の声かけ。</p>	<p>不満や悩み等聞き入れ、必要があれば入居者と距離を置く事もありました。</p> <p>職員会による親睦会の実施。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>人事考課制度の導入をしており、昇格等は法人の基準に基づき実施している。</p> <p>定期的な職員研修を実施している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>センター方式を導入することにより過去の暮らしや困っていること、希望等を拾い、更に会話を持つことで本人の状態ニーズの把握に努めている。</p>	<p>入居者が不安なくなじんで頂ける様ケアプランを作成し、入居者一人ひとりの傾聴を大切に心掛けている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ホームでの生活が理解できるよう、見学の機会を設けている他、ホームでの生活に、望む事を確実に聴き取るよう、充分コミュニケーションを図っている。</p>	<p>家族の心配を軽減し、入居者がホームに馴染む為にも、気持ちよく来訪して頂ける様配慮している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当ケアマネージャーと連携をとっている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居時には担当ケアマネージャーとも連携をとっている、ほか希望があればいつでも見学できる体制にある。 入居後本人がホームに馴染んで頂く為に、家族の来訪や、電話が常時つながる様お願いする。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の目線にあわせ本人の言語でゆっくりとコミュニケーションをとっている また、縫い物、調理などの場面では教わることが多くあるので意識的に場面作りを行っている。		入居者との会話を多く持ち、昔の出来事や、得意なことを教えて頂いている。 フロア内で使用している布巾、雑巾は全て入居者が縫ってくれている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホーム内での行事を企画する際には、家族の参加を促し、協力いただいている。ほか、希望により、随時相談を受け入れる。		家族さんとは、状況によってはより密に連絡を取り合い入居者さんを支えている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの関係を維持できるよう 家族懇談会等やクリスマス会等の行事、家族参加の行事を行っている。		ホームでは、家族懇談会、野遊会等の家族さん参加の行事を行った。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人の来訪は常に歓迎している また、ドライブ等ではきぼうにより馴染みの地、思い出の地めぐりを行った。		今まで暮らしていた馴染みの場所等のドライブを行った。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	リビングでの居場所は、自然と気の合う入居者同士となり、関係を保持できるよう声がけ支援している。 他者との関係を好まない入居者には、無理せず本人の生活スタイルを尊重している。		AMの健康体操、合唱。 PMの余暇活動を通し交流が行えるよう支援している。 一人で長く居る事のないよう話掛けている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居の場合も十分な情報提供ができる記録を準備している。		特養に移った方を入居者と一緒に会いに行きました。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	テレビを見て過ごしたい、毎日趣味活動を行いたい、家事作業を手伝いたい等、本人の意思決定が出来る様全職員に周知している。		コミュニケーションの中から把握に努めている。 隣接する特養で毎月行われている習字サークルに参加している方もいる。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者さんとの会話の中や、家族さんからの情報を得るセンター方式を活用し情報収集し把握している。		センター方式の利用。本人、家族さんとの会話の中で教えて頂く。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	15分ごとの安全確認と共に行動の把握を行い、一人ひとりが何をどこまで出来るかを関わる都度見極め職員間で情報を共有している。		裁縫の得意な方には縫い物を、料理の得意な方には料理を、戸締りの得意な方には見回りと残存機能を生かせるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全ての職員の気付きや意見を採り入れ フロア会議でのカンファレンス 介護計画書作成にあたり家族さんの意見・要望を伺い同意を頂いています。		情報ノート等活用し全職員の意見を集め作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間ごとの評価、又状態の変化に応じ都度話し合いを設けている。他に全ての職員の気付きや意見を採り入れられる様、会議の際ケース検討を行っている。		介護日誌等活用し、状態変更時には見直します。必要に応じて、センター方式の24時間シートを活用している。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランや介護計画に沿った日々の状態・様子はパソコン内及びすぐに目の届くところにあり情報共有可能です。		介護日誌や情報ノートを活用。必要に応じ24時間シートを活用。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族さんの要望により買い物、墓参り等の外出や正月での外泊等行っている。また、併設の特養ホームの喫茶店、売店、理容室なども利用している。		通院支援(家族の対応が困難な時) 外出支援(外食、ショッピング、ドライブ等)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防との協力体制については隣接する特養と一体で行っている 定期的なボランティアさんの訪問により会食、絵本の会、音楽演奏等行っている。		民生委員の方は運営推進会議に出席し、アドバイスを頂いている。 日舞の招待を受けた。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要時は、いつでも支援できる体制にある。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に包括センター職員が出席し情報、アドバイスを頂き協働関係を築いている。		運営推進会議出席時は入居者さんとのふれあいも行って頂いている。新年会や昼食を一緒に行い交流を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が巡回し日々の健康を管理、相談行う他、必要時にはかかりつけ医との連絡を行っている。		必要時には看護師から医師に手紙を書き、情報を提供している。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	特養の嘱託医として優心病院の医師を配置しており受診しやすい環境にあり、往診も行っている。		今後は、協力医としての交渉をしたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	隣接する特養の看護師が巡回しており健康管理、医療関係との連絡が行える体制にある。		定期的にバイタル測定を行っている。入居者の状態変化時はかかりつけ医に看護師としての所見を情報提供している。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院が必要か否かは医師の判断と考えられるので問い合わせや協力依頼があった場合には速やかに対応できる体制がある。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取り介護の意向を事前に伺い指針に添い説明している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	職員に対し、看取り介護の研修会を開き教育している。家族、医療関係、職員間の情報交換を密にし入居者さんの想いを第一に進めていきたい。		状態変化に伴う今後のリスクや、ケア方針を家族に、その都度、又は、段階的に伝えている。又、家族からの要望を聞きケアに反映している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居の際、十分に説明行う また、職員には事前調査表を用い情報を得、スムーズに生活がスタートできるように勤めている。また、住み替え前の生活環境が維持できるよう馴染みの家具や、生活用品の持ち込みをお願いしている。</p>		<p>住み替えを受け入れられず帰宅願望表出の際、傾聴を十分行い気持ちを共有したり、一緒に外出する事もあります。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉遣いや行動、振る舞いに関しては常時チェック指導を行っており、記録のとり扱いにも留意している。</p>		<p>一人ひとり耳元での声掛けを心掛けています。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>希望の表出や、自己決定が難しい入居者には、本人の意思が反映しやすいようにいくつかの選択肢を用意し本人の意向が確認しやすいよう工夫している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>起床、睡眠時間は個々に合わせている。 食事時間の差も食事を暖めるなどの対応をしている。</p>		<p>物事全て入居者に断り、判断を頂きながら進めています。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>衣類は自分で選んでもらい着用している。 髪型も家族と外出し美容院(カット、パーマ)に行く人もいる。</p>		<p>希望を伺い床屋さんの予約を行う。又、家族さんと希望の床屋さんへ出掛ける方もいます。 お化粧品も自由に楽しんでいただいている。足りない物があればショッピングも計画し、購入して頂いている。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>昼食は入居者とともに作り、職員と後片付けも一緒に行っている。 中庭にて家庭菜園を行っており調理に用いている。</p>		<p>家庭菜園で収穫したものや家族さんが持ってきてくださる山菜等の下処理を皆で力を合わせ行う事もあり、それを話題にしながら食事を頂いています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の嗜好は把握しており、おやつは最低毎日一回食べているほか、要求あるときは随時適切に対応している。 現在飲酒されている入居者はいないが、喫煙希望の方には見守りの中安全に楽しんで頂いている。		御入居者の好みの季節のおやつ(おはぎ、桜餅等)を皆さんで手作りし楽しんでいる。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を用い排泄リズムを把握し出来る限り事前の声かけ、誘導すると共に、職員間の意見交換の元不快の軽減に努めている。また、十分な配慮を指導している。		いつまでも自分の足で、トイレで行えるよう声かけ、誘導、介助についている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週に6日実施しているので寛いで入浴できる体制となっている。 十分楽しんで頂けるよう時間を組んでいる。		入浴順番は公平に組み替えているが、希望、タイミングの決定は本人の意思による。 好みの温度を設定し、季節によってはミカン風呂を楽しんで頂いている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	起床、睡眠時間は個々が決め生活リズムを創っている 昼寝等も各自自由に行っている。 夜間も15分毎の巡回を行い安全、安心の提供に努めている。		AMの体操や余暇活動など、日中の活動を提供し生活リズムを大切にしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備や後片付け、さらには縫い物、唄、手芸等個々の得意な面を日常生活の場で活かしている		食事の準備や後片付け。余暇活動。ドライブ、ショッピング等の行事の計画。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理可能な方は自身で行っており、買い物も自由に行っている。		特養の売店で買い物を楽しんでいます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	隣接する特養でのイベントに参加したり喫茶店で好みのものを味わったり天気の良い日はホーム周辺の散歩も積極的に取り入れている。		ドライブや外食(回転寿司、ラーメン)に出掛けた。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事計画に入居者さんの希望の場所、思い出の地等を組み込んだドライブを数回企画し、実践した。(橋南地区、鶴ヶ岱公園、柳町公園) また、天気次第で突発的にドライブに出かけることもある。		お花見、紅葉ドライブ、以前住んでいた所めぐり、懐かしの地ドライブ等行った。 家族さんとお墓参りを行う方もいる。 お正月には外泊も行う。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	グループホーム内に設置の公衆電話を自由に使用している。 また、年賀状や絵手紙のお手伝いも行っている。		絵手紙を得意とし、身内と交流している方の題材の準備や、投函のお手伝いをしている。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来客時は必ず笑顔で迎えることを職員に徹底し、お茶を用意し近況を申し添えるなど会話の糸口にしていただけるよう、配慮している。		話しやすく、居心地のよい場所を選択できるよう声掛けしています。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修に参加し、全職員周知徹底している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者さんの危険防止、安全を死守する点で玄関にのみ施錠を行っているが家族さんの了解を得ている。ホームの中庭には、自由に出られるよう、日中はリビングの施錠を開錠にしている。		玄関の施錠時間を短縮出来るよう工夫し、実行したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員の配置は入居者さんの状態により流動的に15分おきの安全確認、所在確認を実行している。 夜間の体制には夜勤者一人となるので他入居者の対応をしている場合は見守り困難な場合もある。		安全を第1に考え、夜間のみセンサーを使用している方もいる。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤や消毒物、薬、刃物等の危険なものは保管場所を限定し一部施錠をしている。		管理できる方、出来ない方を把握し、危険のないよう見合った居室の対応をしている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止の為のマニュアルを作成し、その実践につとめている。事故発生時は事故報告書、インシデントレポートを作成し、シェル分析時、十分な話し合いをし、適切な改善策を講じ、事故の再発防止につなげている。特養と合同の委員会を通し、他事故報告も参考にしている。		夜間のセンサーの使用。薬は保管庫にてホームで管理。消防の訓練も行っている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	医務による 職員研修及び消防署による救急救命の講習会に参加し、指導を受けている。 緊急時の対処法についてはマニュアルを作成し特養医務、医療連携をとっている。		緊急時マニュアル、夜間マニュアルを作成、いつでも見られる所に置いている。又、定期的に目を通し戸惑うことのないよう心掛けている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	緊急時対応のマニュアルを作成しており、消防との協力体制については隣接する特養と一体で避難訓練、夜間を想定しての訓練を行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者さんのリスクを含めた状態をこまめに家族さんに伝え、同意を得る。 サービス担当者会議にて状態に沿った対応策を話し合っている。		事故やインシデント時にシェル分析を行い、特養と共同の事故防止検討委員会も設置し、今後に活かしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々のケアプランにより健康支援、定期的なバイタル測定、異変や変化は日誌に記録し医務へ報告し指示を受ける他、家族との連携を図り、かかりつけ医への受診を支援する。		週3回、他必要時にバイタルを測定し、記録、保管している食事量、水分量、体重、就寝時間等も記録保管している。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方箋は個人ファイルに綴り、情報共有し、服用に関しては複数の職員の確認にて与薬し、服用に対しての状態変化等観察、記録を行っている		処方箋の他に入居者の薬の状態が一目でわかるよう一覧表を作成し、常に把握できるようにしている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便表を利用し排便パターンを知るとともに水分チェック表や健康体操、歩行運動等を取り入れて、日常生活にリズムをつけている。また、状態によっては下剤の服用も行っている。		下剤使用にあたっては、職員間で状態を話し合い、量や時間等の調整を行っている。家族さんと相談し決める時もあります。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後及び就寝時に、歯みがきが可能な方には、声かけ誘導を行い、義歯装着している方には義歯洗浄剤を使用する等、清潔保持のための支援をしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の栄養所要量を把握。必要と思われる人、身体状況に応じ摂取量の観察、記録をしている。希望や身体状況に応じて、お粥の選択が出来、嗜好も取り入れている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医務による感染症の研修を行い、感染症対応マニュアルを作成、実施している消毒の実施、温度、湿度の調整、換気にも留意している。特養と共同で感染症対策委員会を設置している。		出入りに消毒マットを使用。うがい、手洗いの実施。消毒液使用の掃除。体調不良者には、感染症対応実施。冬季に加湿器と加湿タオルの使用。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>朝、夕は隣接する特養で専門のスタッフが衛生管理の下で食事作りを行い、昼に関しても新鮮な食材を使い、調理器具、布巾等の消毒もしている。</p>		<p>個人の食品も把握し、賞味期限等を伝えている。冷蔵庫の定期掃除実施。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>道路から玄関入り口までインターロッキングのスロープになっており、脇には鉢植えを置いている。 花壇の花や家庭菜園も交流の場になっている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>トイレ周りの壁紙の色調を暖かみのある家庭的なものにしている。フローア脇には畳の和室があり和み、トイレ、風呂場、居室にのれんをかけ、雰囲気がとても和らいでいる。</p>		<p>照明も時間や、天候、活動内容等によりこまめに調整している。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>フロアは広く、テレビ、ソファを設置。自由に使ってもらっている。皆さん気のあった方と共に決まった場所を見つけ落ち着いている。</p>		<p>自分の椅子を持ちリラックスされている方もいます。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>希望により家具、装飾品等なじみのものを持参できる。 テレビや仏壇などを持参されている方もいる。</p>		<p>今後も居心地良い環境づくりの為、家族に協力を働きかける。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎日の換気は徹底して行っている。夏場、冬場、又日中夜間と細めに調整を行っており冬場には加湿器、加湿タオルも使用している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>廊下、洗面所、トイレのドアは車椅子や歩行器使用の方も楽に出入り出来るよう広く工夫されています。</p> <p>手摺りも握力のない高齢の方が捕まりやすい工夫がされています。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>花壇には季節の花々を植え、GH以外の人達にも楽しんで頂いている。</p> <p>家庭菜園も行い年々広く、種類も増え、育てる楽しみ、収穫の楽しみを共有している。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>食事や飲み物の好みを取り入れている。 不安行為見られる時は、話の傾聴に心掛け 事前に察知し軽減に努めている。</p>
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>余暇活動の時は寄り添い一緒に時間を過している。又、お茶の時間に皆さんが丸くなり同じ話題を楽しむ事もある。</p>
90 利用者は一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>朝の起床から日中の過ごし方、就寝に到るまで決定は本人が行っている。 入浴時間も出来る限り希望に合せている。</p>
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>AMの健康体操には積極的に参加、合唱も大きい声で歌っている。 一部の人は家事作業にも毎回欠かさず参加している。</p>
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>希望の地を挙げて頂いてのドライブや、花見、ショッピング、外食等行事として計画実行し楽しんだ。又、急な外出にも出来る限り答えている。</p>
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>看護師による巡回、及び定期的なバイタル測定、体重測定、水分、排泄等の記録保管している。食事も進み、体調を崩す事無く過している。</p>
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>体調不良時には医務と協力。又、手紙の投函住職さんの月命日参り。困ったことがあれば傾聴し、解決に向け支援している。</p>
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>来訪時や訴え時に話を伺い、返答、又は支援に反映させている。会話を持つことにより信頼関係に繋げている。ビデオ、アルバムにより日常の様子を紹介している。</p>
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>知人の方の来訪の他、小学生、ボランティアさんが来訪し、定期的に交流を行っている。 夏には中庭で特養利用者との交流もある。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	町内会行事の誘いも少しづつ増え、小学校の運動会、学芸会にも招待され参加した。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	御入居者さんの状態の変化に応じた支援に悩む事もあるが、積極的なアイデアを出し合い、しっかりと向き合っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	「ここは良い所だ、ありがたい」との声も聞かれ概ね満足して頂いていると思うが、帰宅願望の表出もある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	概ね満足して頂いていると思うが、状況に応じて報告、連絡を行うが、うまく伝わらない事もある。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

起床、食事、日中の過ごし方、就寝等日常生活ペースは本人の決定によりますが、日常生活を活性させる為、又、「一人にしない、寂しくない、退屈させない」等を通年の思いとし余暇活動時に幅広い趣味、運動を提供し、他入居者との交流、職員とのふれあいを大切にしています。又、行事ではドライブ、ショッピング、外食、手作りおやつを多く取り入れています。夏場は出来る限り外に出て花や外気浴、中庭での食事と楽しんでいます。家族さんに日常の様子を知って頂きたくビデオ、アルバム作りに力を入れました。